芦安中学校だより

第　１０　号

校長　大石 浩雄

2024. 10. 28

☆中巨摩英語暗唱大会

１０月１７日（木）に中巨摩英語暗唱大会が行われました。本校代表として３年生の堀内拓弥さんが出場しました。審査員の先生方から声の大きさや表情などのパフォーマンスを高く評価していただきましたが、残念ながら入賞できませんでした。生徒会長として白峰祭に向けての取組で忙しい時期に、代表として練習を積み重ね大会に参加してくれたことに感謝したいと思います。また、こうした大会にチャレンジした経験が、きっとこれからの生活の中で生かされるのではないかと思っています。

令和６年度も後半に入りすでに１か月が過ぎようとしています。上級生がこうして頑張っている姿を見て、１・２年生が何かを感じ取り、それを引継いでいけるようになってしていきたいと思います。

☆小中交流活動（中学生による英語読み聞かせ）

１０月１８日（金）に中学生による小学生への英語絵本の読み聞かせが行われました。題材となったのは「No,David!」という絵本です。触ってはいけないものに触ろうとする、泥だらけのまま家の中に入ってくる、食べ物で遊ぶ・・・その度にお母さんから「No,David!」と怒られるデビッド少年。「No」という否定の言葉にある母親が子供を思う気持ちを、中学生は表現しようと挑戦しました。真剣に聞いてくれた小学生に届いてくれているといいなと思いました。

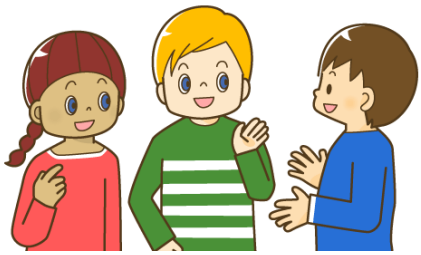
☆バドミントン県新人大会がありました

１０月１９日（土）２０日（日）にバドミントン部１・２年生が参加した県新人大会が行われました。男子シングルスに２名、女子シングルスに２名、ダブルスで男女各１ペアが出場しました。結果は男子・女子ダブルスの各ペア、男子シングルスの２名、女子シングルスの１名は１回戦での敗退、女子シングルスで１年生の田中さんが１回戦に勝ち２回戦に進出できました。試合としては負けてしまいましたが、フルセットまでもつれる拮抗した試合もあり、今後の練習での頑張りに期待したいと思います。

ところで、新人大会があるのはなぜでしょう。おそらく、上級生が引退してからある程度時間が経過し、自分たちが取り組んできたことを振り返る機会とするといった意味があるのでしょう。部や個人としての目標設定は適切だったか、練習計画や練習内容は妥当だったのか、目標達成へモチベーションは維持できたのかなど、今回の試合内容や結果と照らし合わせ、来夏に行われる県総体までの活動にいかせるようにできるとよいのではないかと思っています。

☆講演会を聞いて（雑感）

先日、地域教育フォーラムという講演会に参加して、山梨大学学長の中村和彦氏の講演を聞く機会がありました。講演内容はたくさんあり、すべてをここに記すことはできませんが、印象に残ったことの一つに、現代の子どもはコミュニケーション能力の低下という問題を抱えているという話がありました。



コミュニケーション能力というと「あいさつができる」「国語力や英語力があって色々な人と会話ができる」といったことをイメージしがちですが、中村氏はコミュニケーション能力とは上に書いたような目に見える能力でなく「人を思いやる力、人を慈しむ力」であり、それが以前（30 年～40 年前）に比べ低下していることが問題だと指摘、その問題を地域や学校として解決していかなければいけないと話していました。

確かに、いくらさわやかなあいさつや流ちょうな会話ができても、自分の要求を一方的に言うだけ、相手の様子を気にかけないような人とは、積極的に関わりたいと思うことは少ないでしょう。コミュニケーションは相手があって初めて成立するものという基本を忘れ、表面的なあいさつや会話などのできる・できないにばかりに目を奪われないように注意しなければいけません。私も校長として芦安中学校生徒の様子を振り返り、コミュニケーション能力の育成のため、何ができるのかをあらためて考えていかなければいけないと思いました。

☆白峰祭に向けた合唱練習

10 月21日（月）の午後、白峰祭に向けて合唱指導で高名な埴原美枝子先生を講師にお迎えして、合唱練習が行われました。練習をのぞかせてもらったところ、参加していた生徒がだんだん主体的になっていく、自信なさげだった声が自信を持った声に変わっていく様子を目の当たりにしました。予定の時間を超えて熱心に指導してくださり、生徒もそこから学ぼうとついていく姿を見て、「教育とは何か」をあらためて考えさせていただいたように感じました。指導終了後、生徒が気持ちよく思い切って歌える環境・雰囲気をつくる工夫や生徒の意欲や集中力を引き出す工夫、合唱つくりに必要な熱量などについて埴原先生が話してくださいました。

白峰祭に向け合唱を創りあげていく上で、大切なことは何か、必要なことはどんなことなのか、生徒はもちろん我々教師にも学びのあった時間でした。

☆市民座談会（市長と生徒の対談）

10 月 25 日（金）の放課後の時間を利用して市長座談会がありました。これは、南アルプス市の金丸市長が将来、南アルプス市がどんな街になるといいか、将来の住人である市内中学生に意見を聞いてみたいと考え、いただいた機会です。芦安中学校では、欠席者を除く生徒全員が参加しました。市内の他校ではおそらく生徒会役員など代表が対談をするということになるところ、芦安中の生徒は全員が市長と直接話ができたということは、とても貴重な経験であったのではないかと思います。当日は生徒が自主的に会場づくりをするなど意欲的な面を見せてくれました。生徒の気配りを感じとてもうれしく思いました。

座談会は金丸市長の南アルプス市の現状と将来の展望を含むあいさつから始まり、生徒会長による学校紹介が行われ、その後意見交換という形で進められました。意見交換は、生徒が考えた将来の南アルプス市像を一人一人話すと、その都度、市長がその内容を受けてコメントをしてくれる形で進められました。自然環境の保護やそのための具体的な方策、子育てを安心して行うための支援や教育環境の整備、交通利便性の向上、人の交流が盛んになるためのアイデアなどいろいろな角度から行われた意見交換は我々教員が聞いていても興味深いものでした。

座談会を終えて帰り際に来校した市の方から、生徒一人一人がとてもしっかりとした意見を言ってくれ、今後の参考になるようなものもあり、とても良い機会になったとの言葉をいただきました。生徒のみなさんお疲れさまでした。

なお、今回座談会の時間が予定より伸びてしまい、迎えに来てくださった保護者の方をお待たせしてしまうということがありました。ご迷惑をおかけしすみませんでした。

芦安中学校だより

第　１１　号
校長　大石 浩雄
2024. 11. 5

☆芦安小中白峰祭が実施されました

１１月１日（金）に芦安小中学校合同の白峰祭が行われました。当日は多くの保護者、地域の方に来校していただき、観覧席はほぼ満席でした。ありがとうございます。生徒たちはこの日に向けて、自分たちでどんな目的で何をするのかから話し合い、取組を進めてきました。小中合同で取り組む行事なのだから「小学生があこがれるような、小学生の手本となるような姿を見せたい」という中学生としての自覚と「自分たちのやる気を保護者や地域の方に見てもらいたい」という気持ちはいかがだったでしょうか。

☆小学生の発表（合唱と合奏）

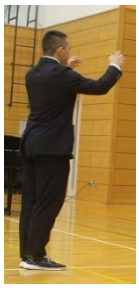
開祭式後、最初の発表は小学生の合唱と合奏でした。合唱曲の「ビリーブ」、合奏曲の「カイト」どちらの演奏も一生懸命に取り組んできた様子が伝わってくるものでした。中学生にとっては、少し前の自分たちの姿を見るような気持ちだったのではないでしょうか。

☆小中合同太鼓活動の発表

芦安地区で長く続く夜叉神太鼓の流れを汲んだ活動として、小学校４年生から中学３年生がメンバーとなって取り組んできました。演奏に先立って代表生徒が語ってくれた、これまでに太鼓を経験してきた生徒と経験が少ない下級生とではいろいろな面でギャップがあり最初はなかなか思うような練習ができなかったことや、経験者のフォローや未経験者の頑張りで何とか発表にたどり着くことができたといった言葉は、純粋に一生懸命にやろうと思っていたからこそ出てきたのではないかと思います。当日は、指導をしてくれている宗先生がつくってくれた「勇気」を力強く発表しました。ピンと張りつめた空気の中でおこなわれた演奏は大変迫力があり、見ていて「かっこいい」と思いました。おそらく聴いている人たちにしっかりと自分たちの気持ちを伝えることができたと思います。演奏が終わり、会場からたくさんの拍手を受け、少し誇らしそうな姿が印象的でした。

☆中学生による合唱

以前の学校だよりで紹介させていただいた「YELL」という曲を発表しました。今回の合唱では、頑張る生徒が少しでもいい演奏・発表をできるように支えたいと、3 人の担任の先生も生徒たちの中に入ってくれました。「人数が少ない」という合唱するにあたって大きなハンデを乗り越えようと取り組んできた生徒の頑張りは届いたでしょうか。



白峰祭の取組期間ということで校舎内に生徒の歌声が響く日がしばらくの間続いていました。その歌声を聴きながら改めて歌声の響く学校というのはいいものだなと感じていました。私の個人的な思いではありますが、白峰祭が終わってもこの歌声が続いていってほしいです。

☆中学生による演劇「白雪姫×2（かける）」

童話「白雪姫」のパロディとしてオリジナルの台本をつくり演劇にしました。台本をつくった生徒会本部に聞いたところ、台本をつくるにあたって大きく 2 つの思いがあったと話してくれました。一つは小学校低学年でもわかり、楽しんでもらえるような劇をつくりたいという思い。もう一つは、人前に出ることを嫌がるような人でも、少しでも参加できるようにして全員で作ったと言える劇にしたいという思いだそうです。こうした思いを持ち「主体的な活動」をしてきた生徒の演劇は、普段の様子からは想像できないような演技力や工夫された演出などもありその狙い通り、小学生にもわかりやすくしっかりと楽しんでもらえたようでした。

☆全員合唱「もみじ」

プログラムの最後は白峰祭の会場にいる全員で「もみじ」を歌いました。ちょうど周囲の山も色鮮やかになり、まさにこの時期にぴったりの曲だったと思います。今回の白峰祭で歌ったこの「もみじ」が生徒の記憶のどこかに残り、将来、何かの機会に芦安中での生活や周囲の山々の景色を思い出し、自分たちを支えてくれた地域への愛着につながってくれたらいいなと思いました。

☆生徒の展示作品

生徒がこれまでの学校生活の中で作った作品や今回の劇の原作本とオリジナル台本、全校登山で撮影した写真などが展示されました。

とてもいい白峰祭でした。生徒のみなさんお疲れ様。そしてありがとう。